

まえがき

これまで、たくさんの方々に支えられてきたおかげで今があります。良きご縁に導かれ、未熟者であるにもかかわらず多種多様な仕事の機会にも恵まれました。

諸先輩方のご厚意には感謝しかありません。独立するまでは、仕事とはつらいもの、我慢しなければならぬものだとしてらえていましたが、仕事と趣味の境界線は年々薄れ、おかげさまで日々の活動は楽しくやりがい満ちたものとなっています。もちろん、失敗することは日常茶飯事ですし、うまくいわずに悩むことや、思いどおりにならないことも多いのですが、その一つひとつが糧となって今の自分を形成してくれています。仕事に限らず人生を通して、つらい経験や困難を乗り越えていく過程にこそ、人としての成長があるのだと身をもって実感しています。

物事がすんなりと進むときよりも、障害があるときのほうが経験値は多くなりますし、人生に深みを与えてくれるのではないのでしょうか。まだまだ大したことを言えるような身ではありませんが「自分とは」「人間とは」「生きるとは」そういったことを少しは深く考えられるようになって、亀の歩みといえども一歩一歩成長できているという自負は持てるようになりました。

いろいろな仕事に関わり、さまざまな人と接しているうちに、自分の得意技と呼べるものを見つけたように思います。それは、本質的な共通点を見いだして整理し、その点と点を結びつけること。まさに「むすび」の神様にでも導いてもらっているような心境です。人と対話しながら相手の考えをまとめて形にしたり、あれこれと好奇心の向くままに探求しては情報を整理して共通項を発見したりと、ぼくにとつて「むすび」は生きがいであり、また極上の遊びでもあり、大切な仕事でもあります。自身の経験と思想とを主軸に、方々で学んだことを結びつけ、おいしく食べてもらえるように丹精を込めてギュッと握る。ぼくの思想が炊いた白米だとすれば、学び得たものが彩り豊かな具材、先人たちの叡智という海苔を巻いて出来上がったのが本書というわけです。

ぼく自身がとにかく楽しんで探求したことや興味を持って学んだこと。おもしろおかしく創作したことで。そして次世代へ向けて、老若男女を問わず縁ある方に受け取ってほしいと願うこと。

探求、創造、教育の三つを柱に、まるで子どもがはしゃいで何かを見せびらかせたがるような境地で、無邪気に思索したことを書き留めた随想録です。西国三十三所巡礼の如く、お参りする札所の順序はあまり気にせず、多少の前後関係はあるかもしれませんが、どこから読んでもいいように短編にまとめました。後を引く笑いや楽しさ、あるいはおいしい酒や食事の余韻を楽しむように、少しでも心に残る味わいを添えられましたら嬉しく思います。